



化学部門教員と大学院生らが教育支援センター「くすの実」で 理科実験教室を実施(4)

【概要】

令和 3 年 9 月 24 日(金)に、不登校支援機関の教育支援センター「くすの実」にて理工学部 長田 聡史 教授と先進健康科学研究科（理工系）の大学院生らが本年度 4 回目の理科実験教室を実施しました。

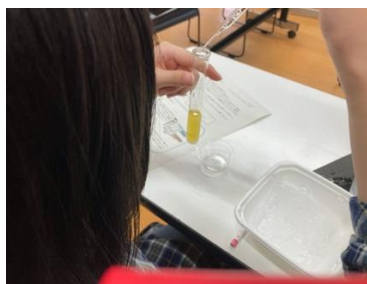
【本文】

理科実験教室支援活動は、佐賀市教育委員会の不登校支援機関である教育支援センター「くすの実」の要請により、理科への興味をきっかけに子ども達の就学意欲の芽生えを目的として行なっています。

令和 3 年度第 4 回は 9 月 17 日(金)に予定されていましたが、台風接近に伴う一斉休校で 1 週間後の 9 月 24 日(金)に理工学部化学部門 長田 聡史 教授と先進健康科学研究科(理工系)の大学院生が、「キラキラスノードーム！」と題して、物質の溶解度を利用した理科実験を行いました。

まず、小中学校の理科学習内容でもある溶解度について簡単に説明を行ったのちに、食塩とミョウバンを使って溶解度の違いを調べる実験を行いました。同じ原理で試験管内に金の雪を降らせる実験としてヨウ化鉛を使った再結晶実験を行いました。まず、ヨウ化カリウム溶液と硝酸鉛溶液を調製し、ともに無色であることを確認しました。続いて、液を混合するとヨウ化鉛の黄色の沈殿が現れ、子供たちは歓声をあげていました。黄色になった懸濁液を湯煎で加熱すると、ヨウ化鉛が溶けるとともに溶液が無色になっていくことにさらに驚いた様子でした。湯煎から取り出して冷やすとヨウ化鉛の結晶がキラキラと現われ、子供たちは神妙に観察していました。

「塩と氷を混ぜると零度より下がるって本当ですか？」という突然の疑問に、ちょうど用意していた機器で実演したところ、温度がマイナス 10 度近くまで下がる様子に歓声が上がりました。子どもたちの素朴な疑問に理科実験教室として応えられ良かったです。



「理科実験教室」の様子